

お天気解説 アキラのズバツと

江戸時代、寒冷化が襲った

令和7年5月23日

江戸川区気象防災アドバイザー 藤井 聡

こんげつ にち しやうまん たいよう ひかり あ
今月21日から「小満」。太陽の光を浴び
てすくすく育った生命が天地に満ち始める頃
のことをいいます。植物は光合成をして大
きく育ちます。太陽の光、水と程よい温度
は植物には無くてはならないものです。もし
植物が無くなったら、人も動物も食糧が
無くなって生きていけなくなりますね。



写真 浅間山(気象庁撮影)

さて、江戸時代の中頃に気温の低い状態が

続き、農作物の取れないことがありました。よく云われている「飢饉」です。そのうちの1つ、
「天明の飢饉」は低温などの影響で東北地方を中心に作物が取れず、餓死した人が東北地方だ
けでも数万とも十数万とも云われています。死体があちこちの道にあふれ、人は草木の根や死
んだ人の肉を食べるなど悲惨な状況に陥ったそうです。

この低温は、1783年に発生したラキ火山（アイスランド）の噴火の影響です。大量の火山
灰から生じた物質が、世界中の大気に広がって日光を遮ったため、地球全体の気温を大きく下
げたとされています。ヨーロッパやアメリカでは深い霧が立ち込め気温が下がり、作物が育た
ず飢饉になったようです。日本では同じ年に発生した浅間山の噴火の影響が加わって「天明の
飢饉」になったとも考えられています。他に、噴火が突然の寒冷化をもたらした例として、
1815年のタンボラ火山（インドネシア）の噴火は、アメリカに6月の雪をもたらしたそうです。
ヨーロッパでは夏の長雨で作物が何も獲れなかったそうです。急に日差しが少なくなり低温に
なると植物が育たなくなるので恐ろしいですね。

2025年05月23日11時 気象庁 発表				
日付	今日 23日(金)	明日 24日(土)	明後日 25日(日)	
東京地方	曇時々晴 	曇後一時雨 	曇時々雨 	
降水確率(%)	-/-/0/0	10/10/30/70	80	
信頼度	-	-	-	
東京 気温 (°C)	最高	23	19	21 (19~27)
	最低	-	16	15 (13~16)

東京地方の週間天気予報

(気象庁HPから抜粋)

週末はまた天気がくずれてしまいそうです。

クリックすると気象庁による新しい情報が見られます。